

## 改良ガンタ（木廻し）について

坂下営林署神坂製品事業所 園 原文 平

### はじめに

私は毎日木材を相手に仕事をしている者であります。国有林における人工林の間伐は、今後ますます多くなる傾向にあります。当坂下営林署の場合もヒノキ人工林間伐は49年、50年には立木資材で414㎡を実行し51年も1,100㎡（本数約1万本）が予定されています。

対象人工林の林相等は胸高直径10cm～22cmが大部分を占め樹冠疎密度は $\frac{7}{10}$ 以上、1本当0.1㎡です。この林分で20%の間伐をする場合、伐倒する殆んどの木は、周囲の立木の枝にからみ倒れません。これを倒すにはガンタによるのが一番有利ですが、従来から使用している小型ガンタは一定の直径の木だけにしか使用できず、廻して倒すことができないため、引張る、木の上に登ってゆする、肩でかつぐ、ロープ、チェーン、ワイヤーを使うなどいろいろ工夫してみましたが、安全面から危険があり、無駄な労力を使うため、いかにしたら安全でかつ効率が上がるかという改良を考えて来ました結果が、ここに述べる改良ガンタであります。

### 1. 改良ガンタの仕様

このガンタは爪を移動することにより、現在の人工林の間伐木なら大小太さに関係なく（間伐木は根元16cm～30cm程度である）どんな木でも廻すことが可能で、伐倒も今までより楽になり、安全作業が出来るとの好評を得ております。

構造は、伐倒の太さに合せてアーム部に5cm間隔で刻まれた溝に爪を固定するもので、この爪の移動固定はチェーンソーの調整スパナを利用して行ないます。

### 2. 使用方法

使用法は、別図2のように懸木となった伐倒木の根元近くの適宜の所にガンタを取付け、その柄をもって左右に廻すことによって樹幹を回転させ、梢頭部のからみ合った部分を離しますと倒れます。

### 3. 使用結果の考察

長所 (1) 人工林間伐木で懸木になったものは、殆んど倒

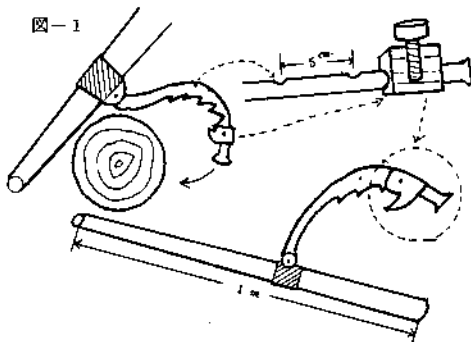
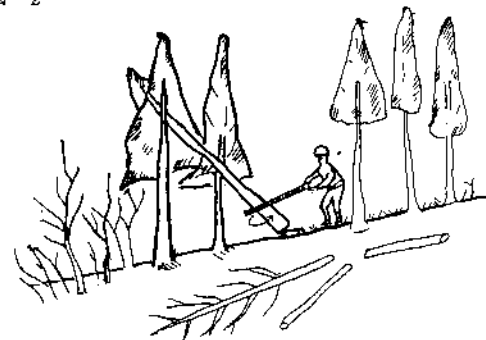


図-2



すことができ能率が上がる。

(2) 安全な作業ができる。

短所 (1) 爪を丸太の径により移動させなければならない。

(2) 「こつ」がある。

があげられる。

参考までに価格は1丁2,800円、柄については小鷲の折損したものを使用し、柄の長さは1mにしました。これは持ち運びの便と間竿の代りに利用するためです。

おわりに

間伐作業においては、まず安全に、効率よく、伐倒することが先決です。今後、更に検討をして欠点の改良につとめ、より良いものを完成したいと思います。皆様のご批判とご助言を戴ければ幸いです。